



HOMO FABER EVENT

Crafting a more human future

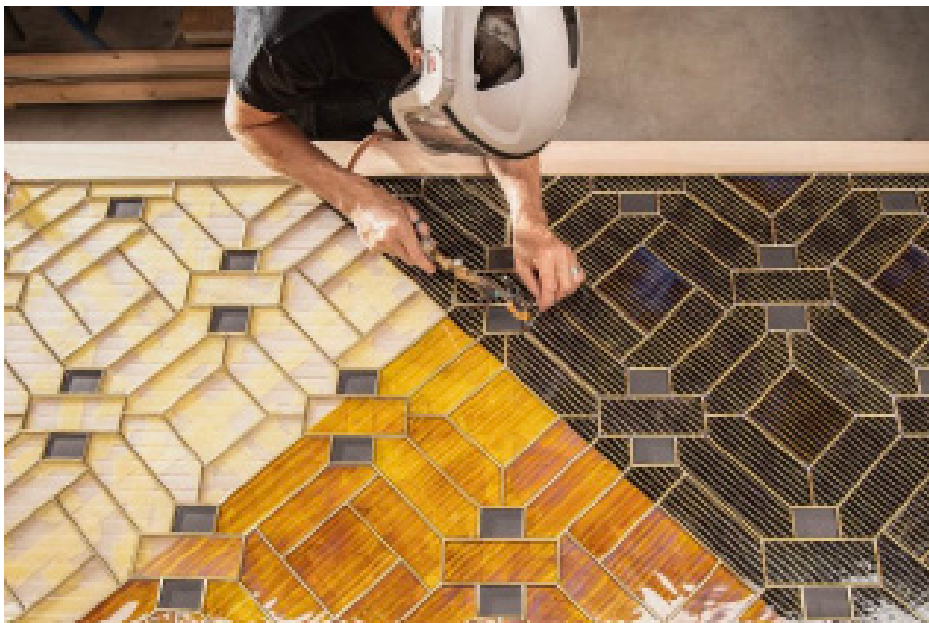
10 April-1 May 2022 VENICE FONDAZIONE GIORGIO CINI

展覧会ピックアップ

「Pattern of Crafts」

名匠の手技から生まれる、多様な表現と形

ドイツのデザイナー、セバスチャン・ヘルクナーが
インテリアにおける職人技の重要性に焦点を当てます。



アトリエ・メツダフによる
展示作品（ステンドグラス）
の制作風景。

©Atelier Mestdagh

〈みどころ〉

- ・サン・ジョルジョ・マッジョーレ島の教会前広場に敷かれたタイルの幾何学模様を、日本とヨーロッパの名工たちの技で再現
- ・大理石、寄木細工、テキスタイルなど、さまざまな工芸分野における一連の卓越した技を、各工程や製作風景とともに紹介。
- ・進化するデジタル社会のなかで、人間が持つ感覚がいかに重要で、インテリアの豊かさに寄与しているかを解説。

2019年のメゾン・エ・オブジェで「Designer of the year」に選ばれたセバスチャン・ヘルクナーは、「Pattern of Crafts」にて、インテリアデザインと室内装飾の分野における職人技の重要性を探ります。ヘルクナーは、ヨーロッパ各国から名工を選出。サン・ジョルジョ・マッジョーレ聖堂前広場のタイルに描かれたレース編みのような八角形のパターンをモチーフにデザインした作品の制作を彼らに依頼しました。

大理石、ガラス、モザイク、寄木細工、金工、染織など、各専門分野の技術や素材知識を生かしながら職人たちがそれぞれにパターンを読み解き、独創的なパネルを創作していきます。この取り組みは、伝統に培われた技で現代空間に生きる形を作り出すことで、いかに職人たちのノウハウがデザイナーのイメージを実現するかを証明するものです。会場内では各作品の製作風景やその工程なども垣間見ることができます。ドイツ・バイエルン州で父の営む工房や森で幼少期を過ごしたセバスチャン・ヘルクナーは、ものづくりには、それぞれの土地や文化、そして人間の本质が凝縮されていると考えています。

「私たち人間が豊かな感覚に満ち溢れているという事実こそが人を特別な存在し、この感覚はデザインや職人技にも直結しています。工房に足を踏み入れれば、木の香りを嗅ぎ、ガラスの熱を感じるもの。外見や現実とともに、肌で感じることはとても大切であり、私はこうした感覚を持つ人々のためにデザインをしているのです」 ——セバスチャン・ヘルクナー

【参加する名工たち】

- ヴォレーヌ・ブエ Violaine Buet (フランス/海藻のテキスタイル)
- フランシスコ・カレーラ/パキリ Francisco Carrera Iglesias, Paquili, (スペイン/刺繍)
- エディション・フォン・トレック edition Van Treeck (ドイツ/フュージングガラス)
- シグネ・エムダル/エムダル・スタジオ Signe Emdal, Emdal Studio (デンマーク/手織り)
- ジュリアン・フェラー Julien Feller (ベルギー/木彫)
- ダニエル・ヒース Daniel Heath (イギリス/壁紙)
- エナー・イグレシアス Henar Iglesias (スペイン/羽根細工)
- セヴェリナ・ラルティエグ Séverina Lartigue (フランス/絹でつくった花)
- アンナ・ル・コルノ/ファルーシュ Anna Le Corno, Farouche (フランス/寄木細工)
- アトリエ・メツダフ Atelier Mestdagh (ベルギー/ステンドグラス)
- ナチュルテックス Naturtex (スペイン/織物)
- オルソーニ・ヴェネチア 1888 Orsoni Venezia 1888 (イタリア/モザイク)
- マリー・ドゥ・ラ・ルシエール Marie de la Roussière (フランス/漆)
- ルベリ Rubell (イタリア/織物)
- ホセ・ヴィエイラ José VieiraU(ポルトガル/錫)
- タベア・ヴィツケ Tabea Vietzke (ドイツ/藁の寄木細工)
- ザナ Zanat (ボスニア・ヘルツェゴビナ/木彫)
- パルマリサ・ザンテデッシ Palmalisa Zantedeschi (イタリア/石工)



Laila Pozzo/Michelangelo Foundation

Sebastian Herkner /セバスチャン・ヘルクナー

ドイツ生まれ。2006年に自身のスタジオを設立し、インテリアデザインを軸に活躍している。色彩の感覚、グローバルな思想を得意とする一方で、伝統の職人技に対し高い意識を持ち、同時に新しい技術にも積極的に取り組んでいます。これまでにクラシコン、ローゼンタール、アムネス、カップリーニなど、名だたる家具メーカーと協働。建築プロジェクトや展覧会の会場設計なども行っています。受賞歴に、2019年メゾン・エ・オブジェ「Designer of the Year」など。

Homo Faber Event

Crafting a more human future

会期：2022年4月10日(日)～5月1日(日)

会場：ジョルジョ・チーニ財団(ヴェネチア、サン・ジョルジョ・マッジョーレ島)

概要

ミケランジェロ財団 クリエイティビティ&クラフツマンシップ部門が主催する「Homo Faber Event」は、実演やデジタル技術、展示や手工芸などの表現を通じて、多様な素材、技巧による高度な職人技に焦点をあてる国際的な展覧会。今回は、機能的な日用品から圧巻の装飾品まで、未来へと残していくべき工芸の役割を明らかにしていきます。本展は、日本の人間国宝の超越した技を目の当たりにする絶好の機会でもあり、いかに工芸がアートやデザインと関係しているかをも知ることができます。来場者はヤング・アンバサダー・プログラムに参加している学生たちによるガイドツアーで15の展示を鑑賞。ヴェネチア湾の真ん中にあるサン・ジョルジョ・マッジョーレ島のジョルジョ・チーニ財団を、著名なキュレーターとデザイナーが、圧巻の展示室へと変換していきます。これに加えHomo Faber in Cittàと題し、自身でプランを立てながらヴェネチア市内を巡り職人技に触れるプログラムも用意しています。homofaber.com

【PRESS CONTACT】ご質問、取材・掲載等のご希望は下記へお問い合わせ下さい

竹形尚子 (Daily press) 03-6416-3201 / 090-1531-6268 naotakegata@dailypress.org

info@homofaber.com - homofaber.com

Organised by



MICHELANGELO
FOUNDATION
FOR CREATIVITY
AND CRAFTSMANSHIP

Under the high patronage of



unesco



under the patronage
of the European Parliament



Ministry of Foreign Affairs
and International Cooperation



Schweizerische Eidgenossenschaft
Confédération suisse
Confederazione Svizzera
Confederaziun svizra

Consolato generale di Svizzera a Milano

In partnership with



JAPAN FOUNDATION



Fondation
Bettencourt
Schueller



FONDAZIONE
COLOGNI
MESTIERI D'ARTE



FONDAZIONE
GIORGIO CINI



HOMO FABER EVENT

Crafting a more human future

10 April-1 May 2022 VENICE FONDAZIONE GIORGIO CINI

展覧会ピックアップ

「Details: Genealogies of Ornament」

複雑な職人技が支える、ラグジュアリーなものづくりの世界。

ファッション展示会のデザインやキュレーションを手がけるジュディス・クラークが、15のハイブランドの逸品にフォーカス。そこに秘められた職人の絶技に迫ります。



左上 | Edouard Caupeil®Alaïa
左下 | ©Van Cleef & Arpels
右 | ©Chiso

〈みどころ〉

- ・高級時計、宝飾品、仕立て、鞆、オートクチュール、着物、香水の分野から15のハイブランドをその背景にある職人技とともに紹介。
- ・アントネロ・ダ・メッシーナの名画「書斎の聖ヒエロニムス」に発想を得たカスタムメイド工房が登場。名匠たちの技を間近に。
- ・展示作品を通してほのかに感じる、ヨーロッパの職人技における日本からの影響。

職人技にフォーカスし、ジュディ・クラークとサム・コリンズが複層的なキュレーションを行うこの展示では、高級時計、仕立て、着物、宝飾品をはじめとする15のハイブランドを紹介します。

会場内では、ロンドンのナショナルギャラリー所蔵のアントネロ・ダ・メッシーナの名画『書斎の聖ヒエロニムス』から着想した工房で、職人たちの制作風景を間近に見学することができます。ヴァシュロン・コンスタンティンの珪瑯職人、京都の千總（ちそう）の着物職人たちが、独創的な作品を仕上げる過程で垣間見せる妙技。美しく仕上げられた壁や特別にあつらえたタイル床が工芸の技や道具と見事に調和し、各ブランドの装飾様式、そしてヨーロッパの職人技における日本の影響を感じさせてくれます。

長年放置されていた旧海軍学校の建物のなかで繰り広げられる貴重な職人技は、一つの物語を語るように紹介され、まるで小さな天体の星座のように鑑賞する場所によって異なる景色を映し出します。最後には15のメゾンの職人たちが仕上げた作品が並んでいて、制作過程と完成品のどちらも、非常に見応えのある展示です。

本企画では、特定分野において独自の素材を用い、世代を超えて受け継がれた工芸の技の数々がいかに関係づいているかを系譜的に理解することができます。また、15のメゾンが共通項を持っていることも暗示しており、ファッションの特徴やトレンドも、ヨーロッパと日本のようにクリエイティブで文化的な関係性を持ちながら、繋がっているとわかるでしょう。

15のメゾンの特徴的な製品とともに、多様な伝統の裏にあるものを知ることが企画の核心であるとジュディ・クラークは語ります。

「ホモ・ファベールは、ものづくりの過程を紹介しながら、見事な作品を作り出す人の手技にフォーカスしているのです」
——ジュディ・クラーク

【参加メゾン】

1. アライア Alaïa / クチュール・スカulpture
2. A. ランゲ&ゾーネ A. Lange & Söhne / 彫金
3. アクアフローラ Aquafior / 香水
4. ブチェラッティ Buccellati / 銀製品
5. カルティエ Cartier / 宝石彫刻
6. 千總 Chiso / 友禅
7. ドルチェ&ガッバーナ Dolce&Gabbana, Alta Sartoria - Men's tailoring
8. エルメス Hermès / ヴルール・オ・サーブル技術 (ベルベットカット)
9. ジャガー・ルクルト Jaeger-LeCoultre / 時計
10. ルマリエ Maison Lemarié / 羽根や花をあしらった縫製とプリント
11. ピアジェ Piaget / 彫金
12. セラピアン Serapian / モザイクレザー
13. ヴァシュロン・コンスタンタン (協力: ルーブル美術館) Vacheron Constantin in collaboration with The Musée du Louvre / 腕時計製造、石留め、珧瑯、彫金
14. ヴァン・クリーフ&アーペル Van Cleef & Arpels / 宝飾
15. ヨークス ネットアポルテ&ザ・プリンセス・トラスト YOOX Net-A-PORTER GROUP and The Prince's Foundation / 高級服



Laila Pozzo/Michelangelo Foundation

ジュディス・クラーク Judith Clark

ファッション展覧会デザイナー&キュレーター。実験的なプログラムを紹介するロンドン初のファッションギャラリーをオープンし、40を超える展覧会の企画を行ってきた。ヴィクトリア&アルバート博物館、アントワープのモード博物館、フィレンツェのピッティ宮殿などの委員も務める。2015年アニエールのルイ・ヴィトン・ギャラリーのオープニング展覧会を企画。2018年のHomo Faber Eventでは「Fashion Inside and Out」を企画。ファッション展示に関する多くの講演会を開催しながら、現在はロンドン芸術大学にてファッションと博物館学教授およびファッションキュレーションセンターの共同代表を務めている。

概要

Homo Faber Event

Crafting a more human future

会期：2022年4月10日(日)～5月1日(日)

会場：ジョルジョ・チーニ財団 (ヴェネチア、サン・ジョルジョ・マッジョーレ島)

ミケランジェロ財団 クリエイティビティ&クラフツマンシップ部門が主催する「Homo Faber Event」は、実演やデジタル技術、展示や手工芸などの表現を通じて、多様な素材、技巧による高度な職人技に焦点をあてる国際的な展覧会。今回は、機能的な日用品から圧巻の装飾品まで、未来へと残していくべき工芸の役割を明らかにしていきます。本展は、日本の人間国宝の超越した技を目の当たりにする絶好の機会でもあり、いかに工芸がアートやデザインと関係しているかをも知ることができます。来場者はヤング・アンバサダー・プログラムに参加している学生たちによるガイドツアーで15の展示を鑑賞。ヴェネチア湾の真ん中にあるサン・ジョルジョ・マッジョーレ島のジョルジョ・チーニ財団を、著名なキュレーターとデザイナーが、圧巻の展示室へと変換していきます。これに加えHomo Faber in Cittàと題し、自身でプランを立てながらヴェネチア市内を巡り職人技に触れるプログラムも用意しています。homofaber.com

【PRESS CONTACT】ご質問、取材・掲載等のご希望は下記へお問い合わせ下さい

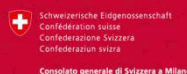
竹形尚子 (Daily press) 03-6416-3201 / 090-1531-6268 naotakegata@dailypress.org

info@homofaber.com - homofaber.com

Organised by



Under the high patronage of



In partnership with





HOMO FABER EVENT
Crafting a more human future

10 April-1 May 2022 VENICE FONDAZIONE GIORGIO CINI

展覧会ピックアップ

「Tracing Venice」

長い時とともに風化した、サン・マルコ寺院のモザイクに思いを馳せて

サンマルコ寺院の貴重なモザイク床の歴史を振り返りながら、デ・カステッリとザネラート/ボルトットが協働で、メタルワークによるインスタレーションを展開。



デ・カステッリによるパネル作品のディテール ©Mauro Tittoto

〈みどころ〉

- ・多様な加工のさまざまな金属を用いたモザイク作品を、サイトスペシフィックなインスタレーションを展開。
- ・ザネラート/ボルトットは、デ・カステッリの協力のもと、モザイク床の背景に隠された街の歴史を調査。
- ・サン・マルコ寺院の装飾を、絶え間なく丁寧に修復し続けてきた歴史を語るとともに、水の都の魅力を明らかにします。

頻繁に水の被害に見舞われる水の都、ヴェネチアのネガティブな特徴までを明らかにしながら、そこに新たな美の視点をもたらしていきます。企画展「Tracing Venice」では、イタリアのデザインスタジオ、ザネラート/ボルトットが金属メーカー、デ・カステッリとともに、サン・マルコ寺院のモザイク装飾の歴史を振り返ります。

2,000㎡を超える12世紀の多彩なモザイク床で知られるサン・マルコ寺院。そのモザイクの複雑な装飾には、ヴェネチアに関する多様なストーリーが関係しています。この街でもっともオープンな場所であるため、サン・マルコ寺院は高潮の被害を受けやすく、モザイク床の劣化は深刻な問題となっています。

今回のプロジェクトでは、金属の特徴と酸化還元技法を活かし、何世紀も生き抜いてきたモザイク床を再現。アートワークの特性を紹介しながら、サン・マルコ寺院の床がいかに繊細で大切に守るべきものであるかを訴えていきます。

水の侵食と歴史の経過によってもたらされた影響を追求するために、デ・カステッリは最先端の技術と職人技で表現の限界に挑みました。酸化還元、鍍加工、研磨などにより、銅、真鍮、鉄を驚くような多様な色調へと展開。まるで生きているかのように、多様な素材、仕上げをミックスしながら、幾何学的な形と色のモザイクを再現していきます。

「デ・カステッリとザネラート/ボルトットの思想を融合しながら、プロジェクトの骨幹を担うリサーチとデザインを構築していきました。彼らのクリエイティブ力に助けられながら 1000 年の歴史と対話を重ね、独自の仕上がりを導き出してきました」 ——デ・カステッリ（金属メーカー）

デ・カステッリ De Castelli

長年にわたる金属製造加工の伝統を受け継ぐ形で、2003 年にアルビノ・チェラートが創設。デ・カステッリは、工芸と最新技術を掛け合わせながら、新たなデザイン表現に挑戦する企業として世界的に知られている。著名デザイナーとの協働による家具の開発を主軸におきながら、たゆまぬ素材研究、開発を続け、新たな仕上げや金属表現に取り組んでいる。近年は、世界の建築家とのコラボレーションにフォーカス。デザイン分野で活躍する企業ともパートナーシップを組み、ヴェネチアビエンナーレ国際建築展やミラノ万国博覧会などのプロジェクトにも参加している。

「寺院は、たびたび建物に損害を与えてきた厳しい気候に耐えながら、この街が何世紀もの時を超えて回復を繰り返してきた証でもあるのです」 ——ザネラート/ボルトット（デザインスタジオ）

ザネラート/ボルトット Zanellato/Bortotto

ジョルジア・ザネラートとダニエレ・ボルトットは、2013 年に共同でスタジオを設立。ヴェネチアで処女作、アクラ・アルタコレクションを発表。これをきっかけに、土地とそこで過ぎる時の流れに注目し、伝統的な工芸技法を新たな表現に転換するリサーチプロジェクトを手がける。プロダクトデザインのほか、アートディレクション、インテリアデザイン、ギャラリーに向けたアートワークを行う。



Laila Pozzo*Michelangelo Foundation

Homo Faber Event

Crafting a more human future

会期：2022 年 4 月 10 日（日）～ 5 月 1 日（日）

会場：ジョルジョ・チーニ財団（ヴェネチア、サン・ジョルジョ・マッジョーレ島）

概要

ミケランジェロ財団 クリエイティビティ&クラフツマンシップ部門が主催する「Homo Faber Event」は、実演やデジタル技術、展示や手工芸などの表現を通じて、多様な素材、技巧による高度な職人技に焦点をあてる国際的な展覧会。今回は、機能的な日用品から圧巻の装飾品まで、未来へと残していくべき工芸の役割を明らかにしていきます。本展は、日本の人間国宝の超越した技を目の当たりにする絶好の機会でもあり、いかに工芸がアートやデザインと関係しているかをも知ることができます。来場者はヤング・アンバサダー・プログラムに参加している学生たちによるガイドツアーで 15 の展示を鑑賞。ヴェネチア湾の真ん中にあるサン・ジョルジョ・マッジョーレ島のジョルジョ・チーニ財団を、著名なキュレーターとデザイナーが、圧巻の展示室へと変換していきます。これに加え Homo Faber in Città と題し、自身でプランを立てながらヴェネチア市内を巡り職人技に触れるプログラムも用意しています。homofaber.com

【PRESS CONTACT】ご質問、取材・掲載等のご希望は下記へお問い合わせ下さい

竹形尚子（Daily press） 03-6416-3201 / 090-1531-6268 naotakegata@dailypress.org

info@homofaber.com - homofaber.com

Organised by



MICHELANGELO
FOUNDATION
FOR CREATIVITY
AND CRAFTSMANSHIP

Under the high patronage of



unesco



under the patronage
of the European Parliament



Ministry of Foreign Affairs
and International Cooperation



Schweizerische Eidgenossenschaft
Confédération suisse
Confederazione Svizzera
Confederaziun svizra

Consolato generale di Svizzera a Milano

In partnership with



Fondation
Bettencourt
Schueller

